

## 母乳中のZincの定量

岩手医科大学公衆衛生 角田文男

わが国における母乳の化学的組成については数例の報告があるのみで、主なるものは1967年、雪印乳業技術研究所、斉藤らの“人乳の組成について”が唯一の全国的調査に基く報告であり、最も詳細なものである。

われわれは、最近の食生活を背景として母乳組成が如何なる影響を受けているかを最近の研究技術を加えながら低栄養地区も含めて調査分析を行っている。同時に最近栄養学的観点から問題になっている Acrodermatitis enteropathica と Zn とくに母乳中の Zn との関連を追求している。そして、さらには母乳中に含まれる Zn 量が地域的に、また初乳、移行乳、永久乳に如何なる含量を示すか、代謝上、蛋白質、脂質との関連もふまえて追求中である。

なお定量法については省略する。

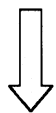
## 母乳中ビタミンE

大阪医大小児科 美濃 真

研究目的：

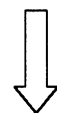
ビタミンEは生体膜の酸化障害に対して、その安定性を維持するために重要な役割を演じていることが明らかにされつつある。一方、新生児期はビタミンEの欠乏状態にあるということはすでに明らかにされているが、新生児のビタミンE欠乏状態が、乳児にどのような障害をもたらしているか、まだ明確さを欠いていた。しかしビタミンE欠乏状態の動物を高濃度酸素下に曝露すると肺に障害をもたらす事実は、ビタミンE欠乏状態の新生児には、肺の酸素障害をもたらしやすい、ひとつの要因を構成していると考えられる。また Jhonson らは、酸素中毒症のひとつと考えられている未熟網膜症 (Retrolental fibroplasia : RLF) の発生に対し、ビタミンEの投与がその発生を阻止し得る事実を二重盲検法で検討し報告している。この事実も、酸素障害防止における新生児期のビタミンEの役割を予想させる事実である。しかし生体膜機能構成の面からも、新生児期は不利な条件下に置かれていると考えられる。生体膜機能の重要な構成成分である磷脂質の不飽和脂肪酸は、新生児には低いと思われ、これは赤血球膜の脂酸構成比から想像される。

このような新生児期の生体膜機能構成面からのハンディキャップを、すみやかに補正してくれる役割を母乳の初乳が担っていると想像し、母乳栄養における生理的役割を、新生児期の生体膜機能



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



最近欧米においても、母乳運動が生物学的意義, 免疫学的意義, 疫学的意義, 栄養学的意義および精神発達におよぼす影響も含めて人間の根源的レベルにおいて論議を呼んでいる。また, Family Planning, Medical Anthropology の立場からも追求される機運にある。我国の母乳組成に関する研究は数多く行われているが, 臨床的なものが多く, 組成, それ自体に関するものは数例の報告があるのみで, 主なるものは1967年, 雪印乳業技術研究所, 斉藤らの“人乳の組成について”が唯一の全国的調査に基づく報告であり, 最も詳細な分析結果である。比較的最近の調査研究としては今村(日児誌, 70, 昭41)の報告がある。